

コミュニケーション 会社の評価に

名正運輸

横井信一郎さんは名正運輸（加藤新一社長、海部郡飛鳥村）のドライバーとして8年になる。「元々、野球をやっていたこともあり体力には自信があった。ドライバーになる前も外で体を動かす仕事をしていたので『ド

ライバーをやってみた」ともうれしい。そういう時に『この仕事をやっていて良かった』と思う」と話す。

ドライバーとして働いた頃、トラックの運転は初めてということもあり、辛いこともあった。「運転は嫌いではなかったが、トラックの運転となると、車幅がぎりぎりの道を走らなければいけない時もあり、非常に怖かった」と話す。しかし、1年も経つと運転にも仕事にも慣れ、現在ではやりがいを感じるまでになった。「荷物をお客様の所まで運んでいき、そこで感謝された時は

とてもうれしい。そういう時に『この仕事をやっていて良かった』と思う」と話す。

山口嘉公車輜統括・品質管理本部長は、横井さんについて「お客様とのコミュニケーションを取るのが非常にうまう、名正運輸の最前線で、素晴らしい仕事をしてくれている」と話す。「実際にお客様と接するのはド



ライバーなので、横井さんのようにうまくコミュニケーションを取れる人がいると、会社全体の評価向上にもつながる」と山口本部長が話すように、横井さん自身も「会社の看板を背負っているのだから、基本的な部分からしっかりと行い、会社の代表として恥じないよう仕事をすることを心がけている」と話す。

今後については「新しいことをやるというより、今までやってきたことを一つひとつ積み重ね、運転や品質レベルを少しずつ上げていきたい」と話した。また、これからドライバーを目指している方に向けて「物流は社会にとって必要不可欠で、お客様に喜ばれる仕事。そこにやりがいを感じられる方は、ぜひ」と笑顔で話した。

（出水駿甫）